



## 効率性と生産性の追求と強い企業体力

令和5年10月31日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

効率性と生産性の向上は、コスト優位性ととも、企業の強さを与えるものである。これらは時代性とインダストリー4.0という新しい現実とともに、企業が自己のプレゼンスの永続を構築できるものである。

これら企業のシステム化は、ITシステムにおいて生産の統括を行うことは、テスラにおける先端生産システムと同様の自己生産環境を構築できることを意味するものである。

これら優れた企業の効率性と生産性は、自己システムとともに、企業経営の固定化を与えるものである。これらが永続する企業のプレゼンスを可能とできるのである。

またこれらに伴う企業システムの構築は、ITシステムにおける企業管理を求め、先端MBAシステムの受け入れは、企業経営の絶対的な健全化を実現できるのである。

これらとともに製品とサービスの優位性を構築することは、時代性と先端性への到達を与え、グローバル基準における自己の確立を実現できるのである。

これらが新しい企業風土を求め、その創造性を自己とするとき、企業は世界基準における自己を有し、世界市場への対等な参加を実現できるのである。

また、自己における企業哲学は、その新しい可能性への挑戦を有するものであり、これらが与える独創性は、世界におけるオンリーワンの企業構築を実現できるのである。

これらは企業が世界と先端基準における自己を有する必要性とその挑戦であり、これらが絶対的な企業の安定性を与えることができるのである。

これらは経営チームにおける人材の育成とともに、企業がその独立性とともに、社会と市場への参加と永続を実現できることなのである。